

# トルコ共和国の国民舞踊「シェイフ・シャーミル」に見られる舞踊表現特性

お茶の水女子大学大学院 松本奈穂子

## 研究目的

トルコ共和国における、いわゆるフォークロアダンスは、踊られるコンテクストによって、1) 村などの共同体内で踊られる「民衆舞踊」、2) 第三者を意識し、振付などをより洗練させて舞台化した「舞台化舞踊」、そして、3) ある程度定式化・公式化され、全国民にフェスティバルやコンクリールなどの場で享受される「国民舞踊」の3つに大別できる。

同国の東北端に位置し、カフカス諸国と接しているカルス県の国民舞踊の1ジャンルであるカルス・カフカスと呼ばれるフォークロアダンスの中で、『シェイフ・シャーミル』は特に有名なレパートリーである。1950年代以前には、「民衆舞踊」として、『シャーミル』などの名称でリゼ、アルトヴィンなどカルス県周辺の地方においても踊られていた。その後次第に舞台化され、「国民舞踊」へと形式が整えられていく中で、公的にはカルス県の舞踊として位置づけられ、名称も『シェイフ・シャーミル』に固定化していった。

現在同舞踊が上演される場合には、その華やかな内容や構成から、フィナーレを飾る舞踊として位置づけられることが多い。男性には勇壮で難度の高い舞踊動作が、女性には優雅な身のこなしが求められる。また、個人およびグループの技量の度合いにより、その振り付けには、かなりの柔軟性・多様性が見られる。

本研究では、国民舞踊のレベルにおける『シェイフ・シャーミル』の舞踊表現分析を行うことによって、現在同舞踊の核となっている表現要素を抽出する。

## 研究方法

1990～97年に現地で採録した『シェイフ・シャーミル』のVTR映像10本を対象に、どのバリエーションにも共通している舞踊動作や構成を抽出した。その他音楽などの要素にも着目し、旋律及びリズム・パターンとの共通性とバリエーションの幅を検討した。

## 結果と考察

分析の結果、『シェイフ・シャーミル』の舞踊

表現特性としては以下の点が認められた。

### 1. 定型の旋律

8小節からなる定型旋律が、必ず現れる。ただし、構成上この旋律が使用される箇所は冒頭部であったり、中間であったり、一定していない。

### 2. 定型の拍子

終始一貫して、8分の6拍子の同一リズムパターンが演奏される。

### 3. 衣装

それぞれ色や形態などにバリエーションはあるが、以下の衣装構成が不可欠なものとなっている。男性：丈の長い上衣、帽子、シャツ、ベルト、ズボン、ブーツ。

女性：被り物、丈の長い上衣、スカート、帯、靴。

### 4. 舞踊動作の共通パターン

男性の舞踊動作は特に敏捷で細かな脚さばきが多く、その動作パターンは歩行から回転まで多岐にわたっている。技量の度合いにより、難度は加減されるが、共通の舞踊動作として8種類の動作パターンが抽出された。

女性の舞踊動作からは、腕のポジションや腕の動作などより、3種類のパターンが抽出された。

### 5. 構成上の共通性

#### ①祈りを表現する導入部

女性のみによって踊られる、「ドゥアー」と呼ばれる、祈りを表現するパートが冒頭に見られた。

#### ②終結部としての男性の踊り比べ

通常「ヤルシュマ」と呼ばれる、男性のみによる、難度の高い舞踊動作を競い合う部分、いわゆる「踊りくらべ」的部分が必ず見出される。一人ずつ中央に進んで、得意技を披露する箇所であり、難度の度合いは、個人の技量により多様である。同舞踊の最大のクライマックスでもあり、同舞踊が公演の最終演目として選ばれる大きな要因の一つでもある。舞踊の時系列的構成として、この部分が後半部分あるいは最終部を占めるのが、際だった特徴の一つと言えよう。

同舞踊は、カフカス諸国において広範に踊られている舞踊『レズギンカ』のバリエーションの一種と見なされる。本研究で見出された『シェイフ・シャーミル』の舞踊表現特性は、『レズギンカ』の多様なレパートリーの比較分析を今後行う上で、有用な指標となりうると考えられる。